



<プレスリリース>

2026 年 8 月 26 日

Sarmony 株式会社
スペースワン株式会社

スペースワン、Sarmony と衛星打上げに関する覚書を締結

2028 年にカイロスロケットによる衛星打上げを目指す

Sarmony 株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役：齋藤宏文、以下「Sarmony」）と、スペースワン株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：豊田正和、以下「スペースワン」）は、Sarmony が開発する小型人工衛星の打上げに関する覚書（MOU）を締結したことをお知らせします。

今回の覚書での基本合意事項に基づき、両社は 2028 年中を目途に、カイロスロケットによる Sarmony の技術実証衛星の打上げを目指して調整を進めます。また、2029 年以降についても、10 機程度のカイロスロケットによる、Sarmony の実証衛星等の継続的な打上げに向けて協議を進めていく予定です。

Sarmony は、薄型人工衛星バス「DiskSat」をベースにした、合成開口レーダ（SAR）による地球観測衛星「SAR DiskSat」を用いて、将来の超低高度軌道コンステレーションによる高頻度・高解像度な地球観測サービスの社会実装を目指しています。今年 3 月には宇宙戦略基金第 2 期「革新的衛星ミッション技術実証支援」に採択され、現在 X バンド SAR DiskSat 技術実証衛星の開発を進めています。

スペースワンは、このコンステレーションの構築に不可欠な、柔軟かつ機動的な専用打上げサービスの提供を通じて、Sarmony の事業展開に貢献してまいります。

なお、本 SAR DiskSat の構想については、米国ソルトレイクシティで 2026 年 8 月 23 日～26 日に開催されている Small Satellite Conference において口頭発表されました。

学会名 ： 40th Annual Small Satellite Conference

セッション名： Constellations – Foundational technologies that support constellations, clusters, or swarms



演 題 : SAR DiskSat Demonstration Mission for Constellation in vLEO
発表者 : Hirobumi Saito, Mitsuteru Kaneoka - Sarmony Co.
日 時 : 2026 年 8 月 25 日 14:15~14:30 (米国山岳部夏時間)

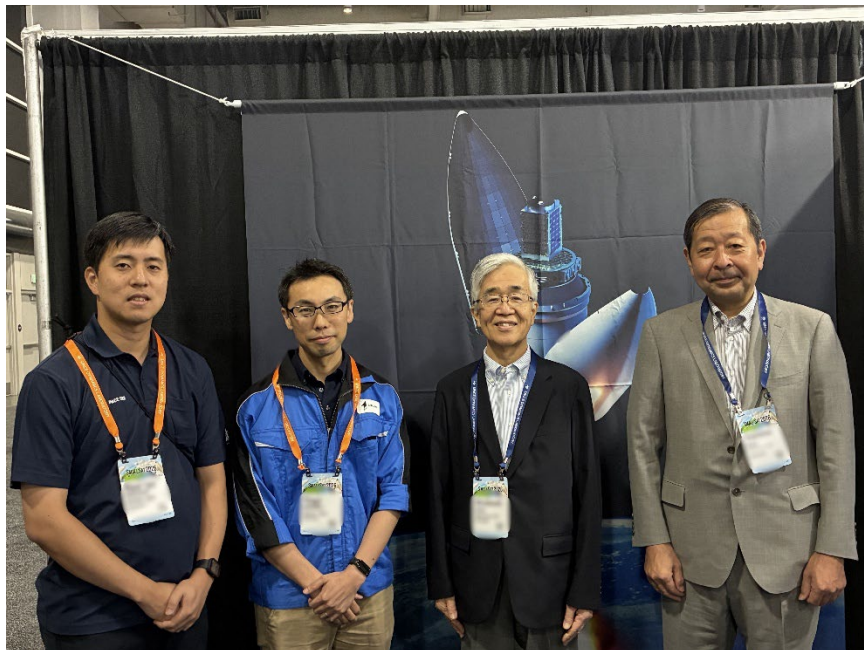
両社のコメント

Sarmony 株式会社 代表取締役社長 齋藤 宏文

「私たちが目指す超低高度軌道衛星コンステレーションの実現には、衛星に必要なタイミングで必要な軌道へ投入できる、柔軟かつ高頻度な宇宙輸送サービスが不可欠です。スペースワン社が掲げる「いつでも、どの軌道でも」というコンセプトは、まさに私たち衛星事業者が求める宇宙輸送の姿です。カイロス、超低高度軌道衛星コンステレーションの実現を支える重要な宇宙輸送基盤です。日本の衛星事業を支える、信頼性の高い打上げサービスとして確立されることを、大いに期待しています。」

スペースワン株式会社 代表取締役社長 豊田 正和

「Sarmony 社が目指す SAR DiskSat によるコンステレーションは、小型衛星の能力を最大限に引き出す先進的な取り組みであり、小型人工衛星の専用打上げに最適化されたカイロスロケットの特長を活かせるプロジェクトであると考えています。今回の基本合意を大変嬉しく思いますとともに、技術実証衛星の打上げはもちろんその先のコンステレーションの展開にも貢献できるよう、お客さまの期待に応える宇宙輸送サービスの実現を目指して参ります。」



写真：Small Satellite Conference での両社の記念撮影

- (右) Sarmony 株式会社 取締役 COO 原 芳久
- (中央右) Sarmony 株式会社 代表取締役 齋藤 宏文
- (中央左) スペースワン株式会社 執行役員 企画・営業本部長 八木 秀徳
- (左) スペースワン株式会社 企画・営業本部 主任 宝蔵 蓮也

【本件に関するお問い合わせ先】

Sarmony 株式会社

info@sarmony.space

スペースワン株式会社 広報室

info@space-one.co.jp

Sarmony 株式会社について

Sarmony は、超低高度軌道で運用する薄型 X バンド SAR 衛星を開発するスタートアップです。低コスト・高分解能・広観測幅を同時に実現する SAR DiskSat により、商業・安全保障・官公庁向けのグローバル SAR コンステレーション構築を目指します。

<https://sarmony.space/>

DiskSat/SAR DiskSat について

DiskSat は、米国 The Aerospace Corporation が開発した円盤型の小型人工衛星プラットフォームです。薄型・軽量の特徴を活かし、従来の小型衛星と比べて空気抵抗の影響が大きい超低高度軌道環境での長期運用に適した設計となっています。また、円盤を積み重ねるように、小型ロケットにも複数機を搭載しやすい構造となっていることも特徴です。Sarmony はこの DiskSat をベースに、独自の SAR を搭載した SAR DiskSat を開発し、高頻度かつ高解像度な地球観測を実現するコンステレーションの構築を目指しています。

スペースワンについて

スペースワンは、小型人工衛星打上げに特化した宇宙輸送サービスを提供しています。和歌山県串本町・那智勝浦町に位置する専用のロケット発射場「スペースポート紀伊：SPK」と、小型ロケット「カイロス：KAIRO」で、2020 年代に年間 20 機、2030 年代中に 30 機の打上げサービスを提供する「宇宙宅配便®」を目指しています。2024 年にカイロスロケット初号機・2 号機の、2026 年 3 月に 3 号機の打上げをそれぞれ実施しました。

<https://www.space-one.co.jp/>

スペースポート紀伊について

「スペースポート紀伊：SPK」は、本州最南端の和歌山県串本町・那智勝浦町に位置する日本で初めての民間のロケット射場です。自社専用射場である SPK は、南方と東方に開けた地理的特性を活かし、打上げる軌道やタイミングに柔軟に対応できる点が特長です。これにより、多様化・高度化する宇宙輸送サービスに対し、機動的なサービス提供を可能としています。宇宙ビジネス市場の世界的な拡大に伴い、宇宙輸送サービスへの需要は増加の一途をたどっています。とりわけ、今後は多数の小型衛星を一体的に運用するコンステレーションの普及により、打上げ需要がさらに加速すると見込まれています。SPK は自社専用射場と小型ロケットを組み合わせた宇宙輸送インフラを基盤に、国内外の多様なユーザーのニーズを取り込みながら、宇宙の力で社会の課題を解決し、人々の暮らしを豊かにする、日本発の宇宙輸送インフラの実現を目指しています。

<https://www.space-one.co.jp/site/>